

岩手地本第51回定期大会

## 労働条件の改善につながる タクシー事業法の早期成立

(岩手地本)

2012年9月29日 盛岡市内の勤労福祉会館で岩手地本第51回定期大会を開きました。



全自交岩手地本（森茂委員長）は、9月29日、盛岡市の勤労福祉会館で、第51回定期大会を開きました。

大会には、全自交労連の伊藤実中央執行委員長をはじめ、連合岩手砂金会長、岩手県平和環境センターの齋藤副議長、岩手県交運労協の柴谷副議長、社民党岩手県連合伊澤代表（総選挙岩手一区候補予定者）、細川盛岡市議、東北労働金庫岩手県本部、全労済岩手県本部、県民共済会の代表者など9名が

来賓として出席しました。

また、役員9名と被災地での復興活動や諸闘争を闘う組合員41名が参加しました。

大会は戸来副委員長の司会で始まり、森委員長が主催者代表挨拶で被災地の街と職場再建の取り組み、組織拡大の取り組みに触れ、「組合員の団結を強化して行動力で活路を拓こう」と訴えました。また、昨年10月24、25の両日開催された労連本部第67回定期大会（岩手大会）で自ら委員長選挙に立候補して於いて負けると解ったとたん大会をボイコットして、地方組織を「お荷物」として分裂したKPUを痛烈に批判しました。来賓挨拶に立った本部の伊藤委員長は被災地の労をねぎらい、タクシー事業法制定の取り組みをはじめ全国的な産別運動の強化を呼びかけました。活動報告では東館書記長が2012春闘の妥結状況、減車の取り組み、被災職場の再建の取り組み等を報告しました。また、議事では東館書記長が新年度運動方針を提案し、「震災復興・生活再建に対する支援継続の課題やタクシー事業法成立に全力をあげ、全組合員が行動力を発揮して組織拡大につなげよう」と呼びかけました。大会最後に挨拶に立った後藤副委員長は、皆さんの支援によって本格営業から1年を経過することができましたと感謝しました。最後に森委員長の「ガンバロウ」三唱で大会を締めました。

